

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2004年4月30日

44号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

第2よつばホーム開所式行われる

一館目「よつばホーム」と連携しより安定した活動へ



4月14日(水)「第2よつばホーム」の開所式と午後からは内覧会が行われました。これに先立って「第2よつばホーム」は、3月29日実質的なスタートをしました。

このたわわ通信でもいろいろご報告してきましたが、入居者は全員一種一級の障害者です。体験入居も繰り返し行われてきましたが、一館目の「よつばホーム」の中で一人ずつ体験してきましたので、2館目のメンバー同士が泊まるという経験は積んでいません。しかも新しい環境の中で過ごすという事は、デリケートな重度障害の人達には、厳しいのです。またこの事は、職員にとっても同じ事なので、まさに少しずつ少しずつ確かめながら、ボリュームを増やしていかなければならないところです。

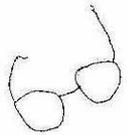
♪ そこで、現在は、入居者の男性が週に3～4日、女性が2～3日の頻度で、いろいろ配慮しながら予定を組んでの宿泊となっています。

♪ スタッフは、職員の女性2、男性2のほか、朝と午後から夜にかけ男女一人ずつのホームヘルパーが配属されます。またこの他アルバイトの人も、入ってケアに当たっていますが、少しずつ慣れながら生活のリズムを組み立てているところです。

♪ 一方、訪問看護ステーションとの連携については、入居者一人一人の生育歴、既往症、現在の状況、投薬などについての聞き取り調査があり、掛かり付けの医師からの指示書の取り寄せの段階に入っています。この後準備が整い次第、ホーム医師と訪問看護ステーションからのスタッフの派遣が定期的に行われる事になっています。

♪ ところで、入居者の親達はどうか、これまで手元で細心の注意を払いながら育ててきた我が子の事です。建設にかかる時から心構えはできているとはいえ、なかなかこれで安心という事はありません。こちらの方も少しずつ少しずつ引継ぎをしている段階です。日常の健康管理、食事のとり方、生活全般について、細かいところまで... フットワークも軽く(?)グループホームを訪問しています。

これからは事務局会議や家族会も先輩「よつばホーム」と一緒に行い、強い連携の中で活動していくことになっています。



めがねのこえ

私は 養護学校を 卒業してから 七沢更生ホームで 訓練をして帰ってからそれを生かすために 港北区社協に相談をして ボランティアさんや 友だちをさがしました。

「みんなの会」に入って ボランティアや 障害者たちと 遊んだり 手話の歌を歌ったり 旅行をしました。その会は しだいにしぼんでいきました。

そのころ しもだの余暇活動青年生活学級「しもだ青年クラブ」がはじまり 11年たちました。この中で 私は パソコンをならい 車イスで 電車に乗る練習と 宿泊会や毎月の活動で自分の 意見を話すことが少し 出来るようになったりしました。

私は 生活の体験もしたいと 思って 青年クラブの ボランティアや 知り合いの方にも手伝っていただいて 月に1回くらい体験をしようと みんなで考えました。

ちょうど 共生会の 施設らしいが 出来たので「そうだ、ゲストルームを借りたらどうか」ということになり、長つづきするように何人かをたのんで 送迎や 買い物の体験や 泊って入浴や食事などの生活の介助をするなど 役割を担っていただきました。

私は 一人でトキゲイトで電話をして 部屋をたのみ、その日に都合の良い人だれと誰にこれをたのむというふうに計画しました。

はじめは 献立てを考えたり いろいろ連絡をしたりが大変でしたが 3年目に 入ると すっかりなれたので回数も 2ヶ月に一度にへらしました。

その頃は ボランティアの友だちと 2人だけで 北海道の 旅行に参加したり いろいろな思い出も あります。 そのうちに 「支える会」の活動で宿泊体験が はじまりましたので 私の生活練習は中断しました。



今年から グループホームに 入ることになりました。そのうちに グループホームに入ることも あるかなと 考えてはいました が、ずっと後かなと 思っていて、 これから先いろいろな 援助をたのみながら 家で生活をしていくことを真剣に考えたいと 思っていたので、自分でもちよつと おどろいています。

まだ グループホームの生活も 数日しか体験していないのでわかりませんが、上手に生活のリズムを作りたいなと 思っています。

大原 友子

会員からの一言

何時も「たわわ」会報ありがとうございます。又第2館目開所の由、そのバイタリティに頭が下がります。どうぞ身体に気をつけて、地域の中で暮らせるようご努力くださいませ。

永澤利子

ご入会、ご継続 ありがとうございます

[敬称略]

《顧問》

薄井 芳夫 若木 信子 岩崎 千恵 田辺 和男 門脇トモ子

《会員》

小栗由美子 宮田 忠夫 大原 日恵 古田 節子 富岡 久子
山田 キチ 阿部八重子 中村 敏子 花岡 満子 福田 定子
鈴江 美博 高島 慶子 藤田 寿子 竹生真喜子 石瀬 有治
菅原 賢 鈴木 仁市 大原 友子

《賛助会員》

中村孝太郎 小栗 芳久 小栗 雄介 小栗 洋平 小栗久美子
高橋 えい 加藤 秀子 笠井満喜子 永澤 利子 鈴木 富子
安田 章子 鈴木 恒夫 福田 徹 小林 辰雄 川上 三寶
松山伊智子 高島 傑 小堀 正巳 明田川節子 佐藤 栄吉
佐藤 幸市 佐藤由美子 三上 文子 森 芳春 吉原ふさ子
小泉 寿子 大澤富美子 島崎八代子 川口たまえ 石阪勢津子
佐藤 政子 白川 淳子 岡本美知子 赤瀬 福子 浜 あい子
川島 仁子 山本 邦子 山内 朋子 渡辺 正恵 川尻 章子
秋田 イト 高島 誠 藤田 博 新田 恵子 鈴木喜三枝
野口 儀子 山田 秀夫 池田 フク 福田 政江 福島喜美代
不動 寿江 西脇 久夫 竹生 義行 井上 禮子 矢島 国夫
吉田 博子

《団体》

フォーラム港北 港北区肢体不自由児父母の会 大原マネジメント研究所
[16年4月24日現在]

* ご入金後、通知が届くまでに多少時間を要します。ご了承下さいませ。
すでにご入金済の方、次号でお知らせ致します。

会員からの一言

ご苦勞も多いと思いますが、どうぞ頑張って下さい。 鈴木富子

第2よつばホーム開所おめでとう御座います。 宮田忠夫

賛助会費お送り申し上げます。お手伝いできず残念ですが、お元氣でご活躍ください。

小泉寿子



今月のよつばホーム

4月から非常勤職員としてよつばホームに入りました菅原香織すがわらかおりです。

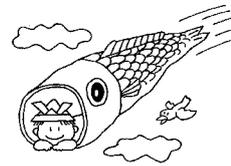
大学では社会福祉を専攻し、在学中は実習やボランティアで障害者の方々と接する機会も数多くありました。でも残念なことに私が関わった授産施設のほとんどが自由のないものでした。「なぜここまで制限してしまうのかな？」と疑問に思う場面は何度も遭遇しました。職員の方に何うと心配だからという理由がほとんどで、利用者の方々に対する心配や、地域の方々に対する心配など色々な角度から考え、結果的にそうになっていたのです。私には、利用者の自由を制限することで何も起こらないようにしているように思われ、福祉関係に進むのを躊躇していました。

しかし、大学3年の時に実習で行った平塚市の授産施設は、「自由」という言葉がすんなり受け入れられるような空間でした。利用者さんが生き生きと仕事をしている場は、私の理想でもありました。ここまで来るまでには色々あって大変だったようですが、それを乗り越え、現状を作り上げたことはすごいと思いました。その施設長の方が、書いた、イマジンという詩があるのですが、その中に、「自分にある要因を個性といいます。取り巻く状況にある要因を障害といいます。自分にあったものを見つけるということを福祉といいます。体が大きい、小さいは障害だと思いませんか。体の大きい人がLLサイズの好みの服を見つけるのは大変で、妥協を余儀なくされることがありますが、個性でしょうか。Mサイズが中心の社会なんだから、体をMサイズの服に合わせるしかないとなったら、その状況はどうでしょう。体をMサイズの服にあわせられなかったら、障害者でしょうか。」という1フレーズがあります。

私はたまにこの詩を読み、利用者の方に自分と同じサイズの服を押し付けていないかを再確認します。そして、利用者の方にとってどのような環境や支援が一番必要であるかを考えます。グループホームはあまり携わったことがなく、まだ慣れるのに必死ですが、まず入居者の方にとって一緒にいて疲れのないような存在になれたらと思っています。そして、一緒に生活したいと思ってもらえるようになれたらと思っています。これから、自分なりに精一杯頑張っていきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。

会員からの一言

一步一步着実に願いを適えていっていらっしゃるお姿に心から敬服いたしております。私達の取り組んだ事とは又違った大変さの多い事、でもやり甲斐も大きいとは存じます。唯どうぞお身体を大切に下さりませ。



島村八代子